



1 be動詞「～である」… am, is, are

(1)肯定文の作り方 ※肯定文・疑問文や否定文でない文

- POINT**
1. 主語の後に置く
 2. 主語が何なのか主語の状態を表す
 3. 主語によって使い分けが必要である(下図参照)

主語	be動詞
I (私)のみ	am
I, you 以外の単数形	is
you、複数形	are

例文 I am a junior high school student. (私は中学生です.)
Kumi is a teacher. (クミは教師です.)
Ken and Tom are friends. (ケンとトムは友達です.)

(2)疑問文(～ですか?)の作り方

- POINT**
1. 主語とbe動詞をひっくり返す
 2. 文末の「I」を「?」に変える

例文 You are Tom. (あなたはトムです.)
⇒Are you Tom? (あなたはトムですか?)

(3)否定文(～ではない)の作り方

- POINT**
1. 否定文には「not」を入れる
 2. 「not」を入れる位置は、be動詞の後ろ
 3. 否定文では「短縮形」も使われる ※短縮形=形を縮めたもの

3つのbe動詞短縮形	短縮形
I am not	I'm not
is not	isn't
are not	aren't

例文 You are Tom. (あなたはトムです.)
⇒否定文: You are not Tom. (あなたはトムではない.)
⇒否定文の短縮形: You aren't Tom. (あなたはトムではない.)



2 一般動詞 … be動詞以外の動詞

① 主語=3人称・単数以外の文

- ※1人称=私・私たち(I, we)
- ※2人称=あなた・あなたたち(you)
- ※3人称=1・2人称以外(he-she-they-itなど)

(1)肯定文の作り方

- POINT**
1. 主語の後に置く
 2. be動詞と一緒に使わない

例文 I play baseball. (私は野球をします.)
You study English. (あなたは英語を勉強します.)
They live in Japan. (彼らは日本に住んでいます.)

(2)疑問文の作り方

- POINT**
1. 文頭に「Do」をつける
 2. 文末の「I」を「?」に変える

例文 Do you study English? (あなたは英語を勉強しますか?)
Do they live in Japan? (彼らは日本に住んでいますか?)

(3)否定文の作り方

- POINT**
1. 動詞の前に「do not」をつける
 2. 短縮形「don't」を使うことが多い

例文 I do not(=don't) play baseball. (私は野球をしません.)
You do not(=don't) study English. (あなたは英語を勉強しません.)
They do not(=don't) live in Japan. (彼らは日本に住んでいません.)

② 主語=3人称・単数の文 ※3人称・単数=he-she-it-単数形のもの

(1)肯定文の作り方

- POINT**
1. 主語の後に置く
 2. 動詞に「3単現のs」をつける ※3単現=「3人称」「単数」「現在」の時
 3. 「3単現のs」のつけ方は、単語の最後のアルファベットにより異なる

単語の最後	3単現のつけ方	例
s, x, sh, ch, o	[es]	watch→watches
y	y→[i]+[es]	study→studies

例文 He plays baseball. (彼は野球をします.)
She studies hard. (彼女は一生懸命勉強します.)

(2)疑問文の作り方

- POINT**
1. 文頭に「Does」をつける
 2. 「3単現のs」を外す
 3. 文末の「I」を「?」に変える

例文 Does he play baseball? (彼は野球をしますか?)
Does she study hard? (彼女は一生懸命勉強しますか?)

(3)否定文の作り方

- POINT**
1. 動詞の前に「does not」をつける
 2. 「3単現のs」を外す
 3. 短縮形「doesn't」を使うことが多い

例文 He does not(=doesn't) play baseball. (彼は野球をしません.)
She does not(=doesn't) study hard. (彼女は一生懸命勉強しません.)

3 名詞 … 「人・物・こと」を表す品詞

① 「一般名詞」と「固有名詞」

- 一般名詞→一般的な名詞(pen, appleなど)
- 固有名詞→人名や地名など(Japan, Tomなど)

- POINT** 固有名詞→頭文字は大文字で表記する(Japan, Tomなど)

② 「可算名詞」と「不可算名詞」

- 可算名詞→数えられる名詞
- 不可算名詞→数えられない名詞

(1)可算名詞(数えられる名詞)

- POINT**
1. 単数の場合→名詞の前に「冠詞」をつける
 2. 複数の場合→名詞を「複数形」にする

★「冠詞」… a・an・theの3つ

冠詞	意味	特徴
a	ひとつの(不特定)	初めて出てきた名詞につける
an	ひとつの(不特定)	初めて+頭文字が母音(a, i, u, e, o)の名詞につける
the	その(特定)	一度出てきた名詞につける

例文 This is a pen. (これはペンです.)
This is an apple. (これはリンゴです.)
This is the pen. (これは、そのペンです.) ※一度出てきた名詞は「the」で指し示す

- 「冠詞」をつけない(ターン) (1. 固有名詞(大文字で始まる名詞)の場合 2. 代名詞(this, that, my, yourなど)を使う場合)

× He is a Tom. × This is my a pen. × I have this the book.

★名詞の「複数形」→基本的には、名詞の最後に「s」をつける

※単語の最後のアルファベットにより異なる(下図参照)

単語の最後	複数形	例
s, ss, x, sh, ch, o	[es]	class→classes
子音(a, i, u, e, o以外)+y	y→[i]+[es]	city→cities
f, fe	f, fe→[v]+[es]	life→lives

※例外→「sheep(羊)」「fish(魚)」→単数形・複数形ともに「sheep」「fish」

(2)不可算名詞(数えられない名詞)

数えられない名詞→液体・時間・お金・感情など形がない・抽象的なもの(例: water, milk, time, money, love など)

- POINT** 「冠詞」・「複数形のs, es」をつけてはいけない

英語表現	意味	例
a cup of ~	一杯の～	a cup of coffee
a glass of ~	一杯の～	a glass of water
a sheet of ~	一枚の～	a sheet of paper
a slice of ~	一切れの～	a slice of bread
a pair of ~	一組の～	a pair of socks

5 代名詞 … 名詞の代わりとして人や物を指し示す言葉

★代名詞の例 this, that, it, I, he, she など
※人を指す代名詞(人称代名詞)には、「格」と呼ばれる形がある

	主格(～がは)	所有格(～の)	目的格(～に)	所有代名詞(～のもの)
私	I	my	me	mine
あなた	you	your	you	yours
彼	he	his	him	his
彼女	she	her	her	hers
私たち	we	our	us	ours
彼ら	they	their	them	theirs
それ	it	its	it	

6 副詞 … 動詞・形容詞・副詞を説明する言葉

- POINT**
1. 副詞の種類によって置く場所が異なる
 2. 「頻度」を表す副詞は要注意

「頻度」を表す副詞
always(いつも)
usually(ふつうはたいてい)
sometimes(時々)
often(しばしばよく)

例文 I am always happy. (私はいつも幸せです.)
He usually goes to school by bus. (彼はたいていバスで学校に行きます.)

7 前置詞 … 名詞の前に置き、場所・時・方向などを表す言葉

前置詞	意味	前置詞	意味
in	～の中に	at	～に～で
on	～の上に	before	～の前に
to	～へ	after	～の後に
with	～と一緒に	about	～についておおよそ
for	～のために	by	～によって～までに

例文 I go to school every day. (私は毎日、学校に行きます.)

8 現在進行形 … 現在進行中の動作を述べる

- POINT** 現在進行形: be動詞+動詞のing形「[今]～している」

例文 He is eating dinner now. (彼は今、夕食を食べています.)

単語の最後	「ing」のつけ方	例
子音(母音以外)+o	[o]を削りて+[ing]	have → having
短母音+子音	最後の文字を削りて+[ing]	run → running

例文 He is cutting an apple. (彼はリンゴを切っています.)

9 命令文 … 相手に命令する文(「～なさい!」)

- POINT**
1. 命令文: 動詞の原形「～(しなさい!)」 ※主語を省略する
 2. 否定の命令文: Don't + 動詞の原形「～(するな!)」 ※主語を省略する

例文 Study hard! (一生懸命勉強なさい!)
Don't sleep! (寝るな!)





1 過去の文

① be動詞「～であった」: was, were

POINT be動詞は、全部で5つある

現在	過去
is	was
am	
are	were



(1) 肯定文の作り方 ※肯定文 疑問文や否定文でない文

POINT 現在形のbe動詞の文と同じ

例文 I was a junior high school student. (私は中学生でした.)
Ken and Tom were busy. (ケンとトムは忙しかった.)

(2) 疑問文(～ですか?)の作り方

POINT 1. 主語とbe動詞をひっくり返す
2. 文末の「」を「?」に変える

例文 You were a student. (あなたは学生でした.)
⇒ Were you a student? (あなたは学生でしたか?)

(3) 否定文(～ではない)の作り方

POINT 1. 否定文には「not」を入れる
2. 「not」を入れる位置は、be動詞の後ろ
3. 否定文では「短縮形」も使われる ※短縮形一形を覚えたもの

※過去のbe動詞の短縮形 (was not = wasn't, were not = weren't)

例文 You were tired. (あなたは疲れていました.)
⇒ 否定文: You were not tired. (あなたは疲れていませんでした.)
⇒ 否定文の短縮形: You weren't tired. (あなたは疲れていませんでした.)

② 一般動詞: be動詞以外の動詞

(1) 肯定文の作り方

POINT 1. be動詞と一緒に使わない
2. 過去形の作り方は、大きく2つある ⇒ 規則動詞・不規則動詞

★規則動詞…動詞の最後に「ed」をつけると過去形になる動詞
※「ed」のつけ方は、単語の最後のアルファベットにより異なる

例文 I play baseball. (私は野球をします.)
⇒ I played baseball. (私は野球をしました.)

単語の最後	「ed」のつけ方	例
子音(母音以外)+y	y ⇒ [i]+[ed]	study ⇒ studied
短母音+子音	最後の文字を覚えて「ed」	stop ⇒ stopped

★不規則動詞…動詞の形が変わって過去形になる動詞 ※変化=「活用」

例文 They eat dinner. (彼らは夕食を食べます.)
⇒ They ate dinner. (彼らは夕食を食べました.)

おさえておきたい不規則動詞

原形	過去形	意味
go	went	行く
see	saw	見る
come	came	来る
have	had	持っている
do	did	する
make	made	作る
run	ran	走る
read	read	読む
put	put	置く
take	took	持っていく
eat	ate	食べる
drink	drank	飲む
find	found	見つける
give	gave	与える
keep	kept	保つ
get	got	手に入れる
sing	sang	歌う
tell	told	話す
swim	swam	泳ぐ
write	wrote	書く

(2) 疑問文の作り方

POINT 1. 文頭に「Did」をつける
2. 「ed」を外す(規則動詞)/原形に戻す(不規則動詞)
3. 文末の「」を「?」に変える

例文 Did you play baseball? (あなたは野球をしましたか?)
Did they eat dinner? (彼らは夕食を食べましたか?)

(3) 否定文の作り方

POINT 1. 動詞の前に「did not」をつける
2. 「ed」を外す(規則動詞)/原形に戻す(不規則動詞)
3. 短縮形「didn't」を使うことが多い

例文 I did not (=didn't) play baseball. (私は野球をしませんでした.)
They did not (=didn't) eat dinner. (彼らは夕食を食べませんでした.)

2 助動詞 …動詞に意味を付け加える言葉

おさえておくべき助動詞

助動詞	意味
can	～できる
must	～しなければならない
may	～かもしれない
should	～すべきだ

(1) 肯定文の作り方

POINT 1. 助動詞を動詞の前に置く
2. 動詞は「原形」にする ※be動詞の原形 ⇒「be」

例文 I can run fast. (私は速く走ることができます.)
He must study English. (彼は英語を勉強しなければいけません.)

(2) 疑問文の作り方

POINT 1. 助動詞を「文頭」に出す 2. 文末の「」を「?」に変える

例文 You can run fast. (あなたは速く走ることができます.)
⇒ Can you run fast? (あなたは速く走ることができますか?)

(3) 否定文の作り方

POINT 1. 助動詞の後ろに「not」をつける
2. 短縮形が使われる助動詞もある

※助動詞の短縮形
can not = can't
must not = mustn't
should not = shouldn't

例文 You can run fast. (あなたは速く走ることができます.)
⇒ You can not (=can't) run fast. (あなたは速く走ることができません.)

(4) 助動詞の言い換え表現

★can = be動詞 + able to (～できる) ※be動詞は主語によって変化する

例文 You can run fast. (あなたは速く走ることができます.)
= You are able to run fast.

※canの過去形 ⇒ could (～できた) もおさえておく

★must = have to (～しなければならない)
※主語が3人称・単数の場合 ⇒ has to

例文 You must run fast. (あなたは速く走らなければならない.)
= You have to run fast.
She must run fast. (彼女は速く走らなければならない.)
= She has to run fast.

★否定文での「must」と「have to」の違い
・must not (～してはいけない)
・don't/doesn't have to (～する必要はない)

例文 You must not run fast. (あなたは速く走ってはいけない.)
You don't have to run fast. (あなたは速く走る必要はない.)

3 未来の文 …「～だろう・～するつもりだ」

POINT 1. 「未来」を表す助動詞「will(～だろう・～するつもりだ)」を使う
2. 助動詞「will」の後ろに「動詞の原形」を置く
3. 文の作り方、使い方は、上記の助動詞と同じ
4. 否定文では短縮形も使う ※will not = won't

例文 It is sunny today. (今日は晴れている.)
⇒ (未来) It will be sunny tomorrow. (明日は晴れるだろう.)
⇒ (疑問文) Will it be sunny tomorrow? (明日は晴れるだろうか?)
⇒ (否定文) It will not (=won't) be sunny tomorrow. (明日は晴れないだろう.)

※will = be動詞 + going to ※be動詞は主語によって変化する

例文 It will be sunny tomorrow. (明日は晴れるだろう.)
= It is going to be sunny tomorrow.

4 不定詞 …文中で名詞・形容詞・副詞などの働きをする

POINT 1. 不定詞 = 「to + 動詞の原形」という形である
2. 不定詞には、大きく3つの用法がある
⇒ 名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法

① 名詞的用法「～すること」: 文中で名詞の役割を果たす

例文 I like to watch TV. (私はテレビを見るのが好きだ.)

② 形容詞的用法「～するための～すべき」: 文中で形容詞の役割を果たす

例文 I have a lot of homework to do. (私は、するべき宿題がたくさんある.)

③ 副詞的用法: 文中で副詞の役割を果たす

(1) 目的「～するために」

例文 I went to the library to study English. (私は英語を勉強するために図書館に行った.)

(2) 感情の原因「～して…(感情)」 ※「感情+不定詞」

例文 I am glad to meet you. (私はあなたに会えてうれしい.)

5 動名詞「～すること」…動詞を「ing」形にして名詞の働きをする

POINT 1. 動名詞 = 動詞 + ing (～すること) ※「ing」のつけ方は進行形と同じ
2. 不定詞の名詞的用法(～すること)で言い換えることができる
⇒ ※例外 enjoy, finish の場合は「ing」形しかとれない(例文参照)

例文 I like playing soccer. (私はサッカーをすることが好きだ.)
= I like to play soccer.
I enjoy playing the piano. (私はピアノを弾くことを楽しむ.)
× I enjoy to play the piano.

6 比較

① 比較級「～よりも…」

POINT 1. 比較するときには「比較級」を使う
2. 比較級の作り方は、大きく2つある
3. 比較する相手には「than(～より)」をつける

★「比較級」の作り方

(1) 単語の最後に「er」をつける
※「er」のつけ方は、単語の最後のアルファベットによって異なる

例文 I am older than Tom. (私はトムより年上です.)
Are you younger than Kumi? (あなたはクミより年下ですか?)

(2) 単語の前に「more」をつける

POINT 比較級にしたい単語が長い場合のみ
⇒ interesting(面白い), important(重要な), difficult(難しい), famous(有名な), useful(役立つ), beautiful(美しい) など

例文 This movie is more interesting than this book. (この映画はこの本より面白い.)

Let's learn English grammar!



厳選 中学3年間の英文法まとめ

3年生

2年生の続き

6 比較

② 最上級「もっとも〜」

POINT

- 「一番」を表現するときには「最上級」を使う
- 最上級の作り方は、大きく2つある
- 最上級の前には「the」をつける
- 「〜の中で」を表す語には「in」と「of」がある
⇒ in + 場所・組織 (例: in Japan, in this school)
⇒ of + 「the」+ 数字 + 「名詞の複数形」
(例: of the three (3人の中で), of all (すべての中で))

★「最上級」の作り方

(1) 単語の最後に「est」をつける

※「est」のつけ方は、単語の最後のアルファベットによって異なる

例文 I am the **oldest** in this class. (私はこのクラスの中でもっとも年上です。)
Are you the **youngest** of the three? (あなたは3人の中でもっとも年下ですか?)

(2) 単語の前に「most」をつける

POINT 最上級にしたい単語が長い場合のみ ※比較級で「more」を使う単語と同様

例文 English is the **most** difficult of all subjects. (英語はすべての教科の中でもっとも難しい。)

③ 特殊な比較級・最上級の活用

原級(原形)	比較級	最上級
large	larger	largest
early	earlier	earliest
big	bigger	biggest
hot	hotter	hottest
many	more	most
much		
good	better	best
well		

POINT

- 単語の最後が「e」: 「e」+ 「r」(比較級)・「est」(最上級)(例: large)
- 単語の最後が「y」: 「y」⇒ 「i」+ 「er」(比較級)・「est」(最上級)(例: early)
- 短母音+子音(母音以外): 最後の文字を重ねて+「er」(比較級)・「est」(最上級)(例: big, hot)
- 不規則変化(例: many, much, good, well)

④ 「like」を使った比較級・最上級

(1) 比較級

POINT 「like」を使った比較級の文には「better」を使う

Which do you like **better**, A or B? (AとBのどちらが好きですか?)
I like A **better**. (私はAの方が好きです。)

例文 Which do you like **better**, summer or winter? (夏と冬のどちらが好きですか?)
I like summer **better**. (私は夏の方が好きです。)

(2) 最上級

POINT 「like」を使った最上級の文には「best」を使う

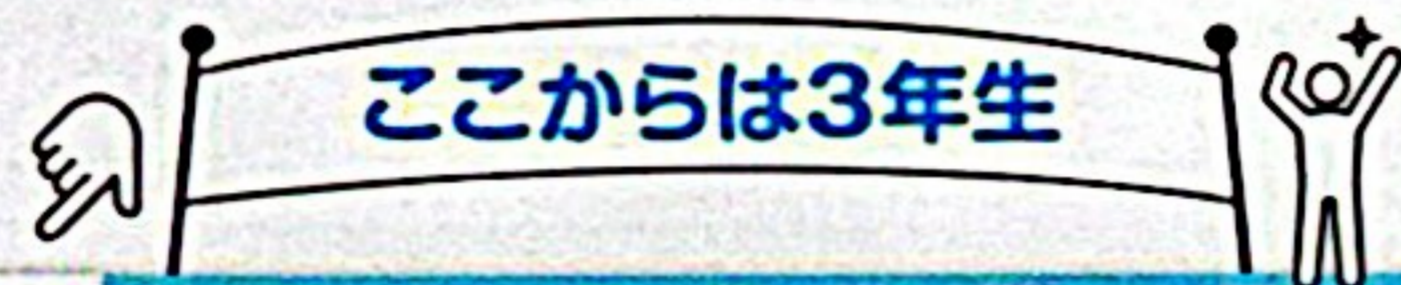
Which do you like the **best**? (どのが一番好きですか?)
I like A the **best**. (私はAが一番好きです。)

例文 Which book do you like the **best**? (どの本が一番好きですか?)
I like this book the **best**. (私はこの本が一番好きです。)

⑤ 原級比較「〜と同じくらい〜」

POINT 1. 原級比較: as + 原級(原形) + as ~ 「〜と同じくらい〜」
2. 否定文では、意味が大きく変わる:
not as + 原級(原形) + as ~ 「〜ほど〜ない」

例文 I am **as** tall **as** you. (私はあなたと同じくらい背が高い。)
This book is **not as** interesting **as** that book. (この本はあの本ほど面白くない。)



1 分詞…動詞の形を変えて形容詞の働きをする言葉

POINT 分詞には2種類ある: 現在分詞・過去分詞

① 現在分詞: 動詞原形+ing 「〜している」

POINT 1. 現在分詞: 動詞原形+ing「〜している」
2. 名詞を修飾する
3. 修飾する語の数によって語順が変化する

●修飾するのが現在分詞1語の場合

例文 Tom is a **running** boy. (トムは走っている少年です。)
現在分詞

●修飾するのが現在分詞+複数の語の場合

例文 Tom is a boy **running** in the park. (トムは公園で走っている少年です。)
現在分詞

② 過去分詞: 動詞の過去分詞形 「〜される」

POINT 1. 過去分詞: 動詞の過去分詞形「〜される」
2. 名詞を修飾する
3. 修飾する語の数によって語順が変化する
4. 過去分詞形は、大きく2パターンある
⇒ 規則動詞・不規則動詞 ※動詞の過去形と同様
※規則動詞…動詞の原形に「ed」をつける⇒つけ方も動詞の過去形と同様
※不規則動詞…動詞の形が過去形⇒過去分詞形と変化する

●修飾するのが過去分詞1語の場合

例文 Look at the **broken** window. (壊された窓を見なさい。)
過去分詞

●修飾するのが過去分詞+複数の語の場合

例文 Look at the window **broken** by Tom. (トムによって壊された窓を見なさい。)*by(〜によって)

おさえておきたい不規則動詞

原形	過去形	過去分詞形	意味
go	went	gone	行く
see	saw	seen	見る
come	came	come	来る
have	had	had	持っている
do	did	done	する
make	made	made	作る
run	ran	run	走る
read	read	read	読む
put	put	put	置く
take	took	taken	持っていく
eat	ate	eaten	食べる
drink	drank	drunk	飲む
find	found	found	見つける
give	gave	given	与える
keep	kept	kept	保つ
get	got	got・gotten	手に入れる
sing	sang	sung	歌う
tell	told	told	話す
swim	swam	swum	泳ぐ
write	wrote	written	書く

2 受け身(受動態)…主語が「〜される」ことを表す文

POINT 1. 受け身: be動詞+過去分詞形「〜される」
2. 「〜によって」と、相手を表す場合は「by」を使う
3. 疑問文・否定文の作り方は、be動詞の文と同じ

例文 This book **was written** by Tom. (この本はトムによって書かれた。)
⇒疑問文: Was this book **written** by Tom?
(この本はトムによって書かれたか?)
⇒否定文: This book **was not written** by Tom.
(この本はトムによって書かれなかった。)

3 現在完了…現在までの継続、完了・結果、経験を表す文

POINT 1. 現在完了: have(has)+動詞の過去分詞形
2. 現在完了は3つの内容を表す: 継続、完了・結果、経験
3. 疑問文: have(has)を文頭に出す
4. 否定文: have(has)の後ろに「not」を置く※短縮形「haven't (hasn't)」

① 継続「ずっと〜している」

POINT 1. 現在までの継続「ずっと〜している」を表す
2. 「期間」を表す語を伴う

※「期間」を表す語

for(〜の間) 例: for two years (2年間)
since(〜以来) 例: since last year (昨年以來)
How long〜? (どのくらいの間〜?)

例文 I **have lived** in Japan for two years. (私は2年間日本に住んでいます。)
How long **have you studied** English? (どのくらいの間、英語を勉強していますか?)

② 完了・結果「〜してしまった〜したところだ」

POINT 現在までの完了・結果「〜してしまった〜したところだ」を表す

※「完了・結果」の頻出表現

Just (ちょうど) ※have(has)と過去分詞の間に置く
already (もうすでに) ※have(has)と過去分詞の間に置く
yet (疑問文: もう・否定文: まだ) ※文末に置く

例文 I **have just eaten** dinner. (私はちょうど夕食を食べたところだ。)
He **has already read** the book. (彼はもうすでにその本を読んでいた。)
I **haven't finished** my homework **yet**. (私はまだ宿題を終えていません。)

③ 経験「〜したことがある」

POINT 現在までの経験「〜したことがある」を表す

※「経験」の頻出表現

Have you **ever** + 動詞の過去分詞 (今までに〜したことはありますか?)
have(has) **never** + 動詞の過去分詞 (一度も〜したことはない)
have(has) **been to** (〜に行ったことがある) ※have(has) **gone to**は不可
How many times〜? (何回〜?)
once (1回) / twice (2回) / three times (3回)

例文 Have you **ever been** to Canada? (カナダに行ったことはありますか?)
He **has never seen** the movie. (彼はその映画を一度も見ただことはない。)
I **have been** to America **twice**. (私は2回アメリカに行ったことがある。)

4 関係代名詞…接続詞と代名詞の働きを持ち、名詞を修飾する

POINT 1. 関係代名詞: which, who, that
2. 前の名詞(先行詞)を修飾する
3. 先行詞によって関係代名詞を使い分ける

3つの関係代名詞

先行詞	関係代名詞	
人	who	that
物(人以外)	which	

例文 Look at the boy **who** (=that) is running with a dog. (犬と走っている少年を見なさい。)
This is the book **which** (=that) is popular all over the world. (これは世界中で人気のある本です。)

5 感嘆文…驚きや感動を表す文

POINT 1. 「なんて〜だろう」と驚きや感動を表す
2. 感嘆文の作り方は、2つある
3. 文末に「！」をつける

※感嘆文①

⇒ How + 形容詞・副詞 + 主語 + 動詞! ([主語]は、なんて〜なんだ!)

例文 How beautiful this flower is! (この花は、なんて美しいんだ!)

※感嘆文②

⇒ What + a + 形容詞 + 名詞 + 主語 + 動詞! ([主語]は、なんて〜[名詞]なんだ!)

例文 What a beautiful flower this is! (これは、なんて美しい花なんだ!)